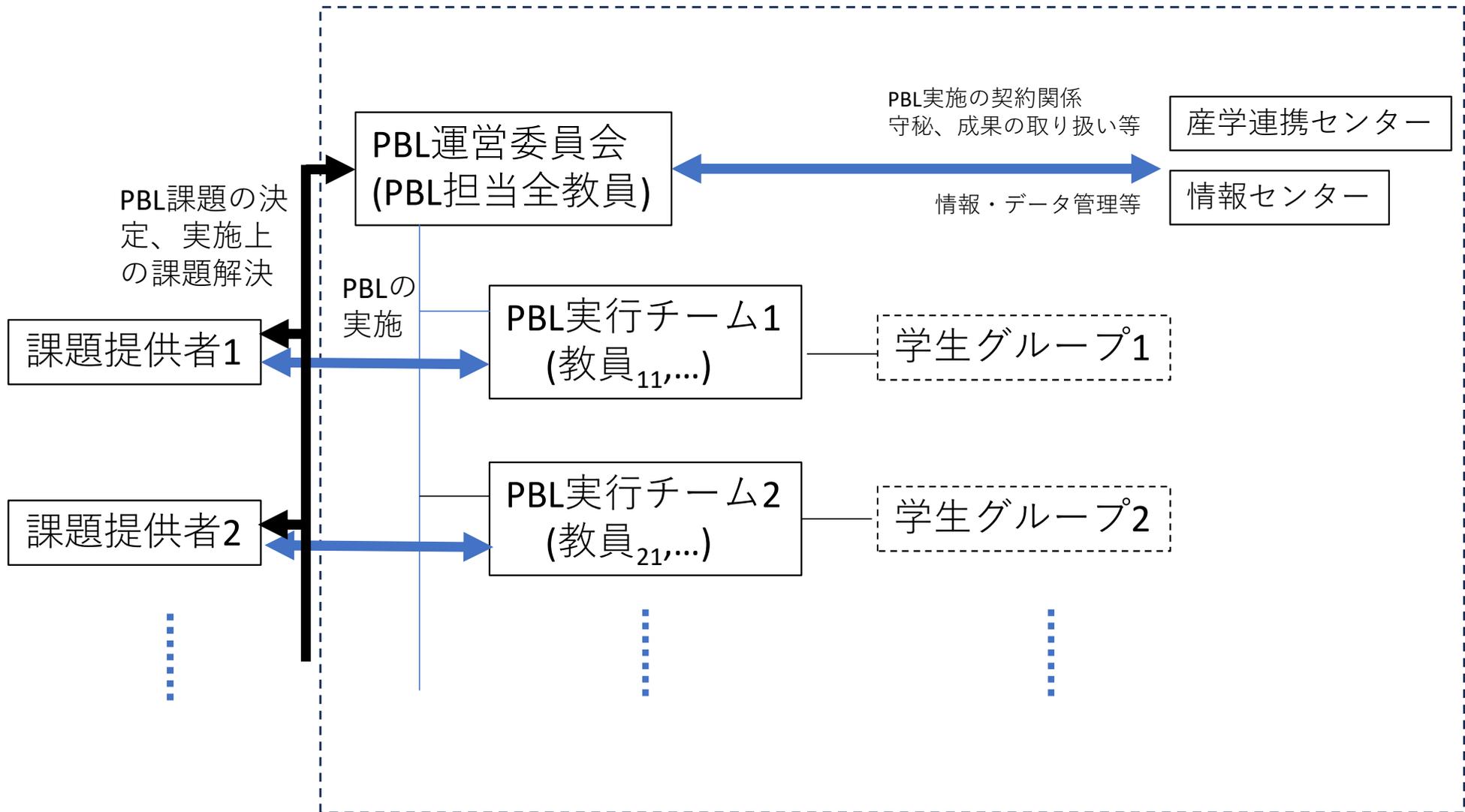


# 別添1 PBL実施体制

ノートルダム清心女子大学



## 別添2 PBL実施準備段階

	課題提供者 (企業、店舗、自治体、NPO等)	大学	
		PBL運営委員会、PBL実行チーム	学生
事前準備	当学科の教員側でPBLで取り組み可能テーマを出し、課題提供者に提案する。なお、当学科の教員の専門領域はコンピュータシステム、インターネット、セキュリティ、ヒューマンマシンインタフェース、マーケティング、公共活動などである。課題提供者からの回答から、教員の専門領域、学生のスキル等を勘案しPBLで取り組む課題を協議し、PBL運営委員会が決定する。課題内容、想定、期待されるアウトプットなどを議論しておく。また、必要に応じて提供情報/データ、成果物の扱い(守秘、知財等)を協議しておく。		

## 別添3 PBL実施段階

	課題提供者 (企業、店舗、自治体、NPO等)	大学	
		PBL実行チーム	学生
1回：オリエンテーション		PBLの概要、目的、到達目標を説明する。グループ分けを行う	
2回：課題説明	課題を学生に説明する。		
3～4回：		進捗管理、必要に応じて指導、助言を行う*1	課題に対する解決方法の議論、演習を行う*2
5回：解決方法のレビュー	PBL実行チーム、課題提供者と協同で調査した解決手法のレビューを行う		
6～8回：解決方法の実施 取組み		進捗管理、必要に応じて指導、助言を行う*1	解決方法を実装、評価する*2
12～13回：成果発表会準備		進捗管理、必要に応じてアドバイスをを行う	成果発表会の準備を行う。
14、15回：発表会と総括	グループ全体で発表会を実施し、担当教員と課題提供者から質疑と講評を行う。演習を総括し、習得したスキルを振り返り、整理する		成果発表会を行う

\*1 演習時間外にも必要に応じて質疑回答や助言を行う。

\*2 演習の進め方の一例として、演習時間外に各学生が議論、演習を行い、演習時間には学生がその結果を持ち寄り、議論やアドバイスを教員から受ける等の反転学習的な方法が考えられる。